

お寺の発見 エコの旅

動機・目的

はじめに、私達家族は2年おきに転勤で住む場所が変わる。京都で生活して1年が経つが、家族で参加できるイベントを探して皆で出かけるのが休日の主な過ごし方である。京都でのイベントや行事の参加を通して感じたことは自然環境保護の内容が多く、「エコ」の言葉をよく見聞きするので関心の高さが伺える。今回のイベント参加募集で歴史ある「お寺のエコ発見」はお寺とエコを結びつけたことがなくとても興味を持った。京都では観光で沢山のお客さんが訪れる印象があるが、普通の観光では味わうことのできない発見があるかもしれない。本イベントを通じてどのようなエコが発見できるのか、わかったことをまとめる。

お寺と神社

	見た目の違い	区別方法
お寺	お墓や仏像がある	仏尊像を安置し仏教の教えを説く僧侶の住むところ
神社	鳥居がある	神道の教えの元、日本の神様の御魂を祀り祭祀を行うところ

お寺は中国、インドといった外国から伝わった仏教

神社は神道という異なる宗教の施設

仏教も神道もどちらも日本人にとってはなじみ深いものである。多くの日本人が仏教と神道のどちらにもお祈りし、ふたつの宗教を違和感なく受け入れているのは日本文化のユニークな点である。

東福寺 住職 そのさんのお話

東福寺の東司（とうす）とは室町時代の建築の重要文化財建造物。現存最古の便所。禅堂の横に必ず置かれる。修行僧の排泄物は農作物の貴重な堆肥肥料であり、食物と物々交換をしていた。

わかったこと

現在、各家庭、公衆、商業施設など必ず便所があり用を済ませば溜めることなく下水処理され生活に困ることはない。排泄物は生活する上で、必要ないものとして処理をお願いしている感覚だが、当時は貴重な堆肥肥料として利用され京野菜には欠かせない存在だった。生活の上でもの自然で無駄のないリサイクルだった

考察

現代は文明が発達して生活しやすく便利だが、便利さ手軽さと引き替えに無駄が多くゴミの問題となっている。無駄なものが減ればゴミも減るはずだが、ゴミの量は増えているように感じる。本来利用できるものを不必要なものとして処分しているからだ。例を挙げればたくさんあるが、東司の例から現在の生活の中で排泄物を溜めて利用できかといえ、衛生面や臭いなど住宅街では難しい。当時は今では難しいと感じることをごく自然に生活の「一部として行っていたことが伺える。

まとめ

お寺の発見の旅当日は寒いと感じ、薄着できたことを何度も後悔しながら東福寺を見学した。禅堂で座禅の体験で住職のそのさんのお話がとても印象に残っている。禅堂は天井が高く家具などがなく広々としていたが、100人もこの禅堂で寝食を共にすること。生活するとなると1人分は畳一畳のスペースしかなく、起きて半畳、寝て半畳の必要最低限である。寝具も冬用があるわけではなく限られたスペースに収まる布団であるようだ。朝から説明をしてくださるそのさんは私より薄着で足は雪駄であるが姿勢良く寒そうには見えなかった。冷暖房に頼らない生活をしてるようで、その話に驚いていると「寒いと思うから寒いんです。暑いと思うから暑いんです。」とおっしゃり、寒い寒いと言っていた自分が恥ずかしくなりました。気温の変化に徐々に体を慣らすとのこと。私は思いだしたことがありました。私は夏場のエアコンの冷たさが苦手な節約の考えもあり、エアコンを使用していない時期がありました。現在の住まいの事情や家族の希望もありエアコンを使用していますが、一度快適な思いをするとエアコンをつけずにはいられない。身体がなれたのは季節の温度ではなく快適だと感じる温度であった。エアコンに頼らず夏を乗り切っていたことを思い出し上着を脱いで座禅を組んだ。姿勢を正して静かな空間で一点を見つめていると澄んだ空気や鳥のさえずりや遠くの音や近くの音が自然に耳に届いてきました。それは普段見過ごしていることでもしかしたら大切なことかもしれない。必要最低限で規則正しい生活をおくる生活こそエコの原点ではないか。現在の生活にすべて変えるのはハードルが高く、長続きしないが元々生活習慣となっていた暑さに身体を慣らし、エアコンに頼らないことは実践できる。便利な方策な方には簡単に慣れて不便を感じていたときのことはすぐに忘れてしまう。忘れていたことを思い出す良いきっかけとなった。